

防災車およびデジタル無線機配備

国の石油貯蔵施設立地対策等補助金および経済危機対策臨時交付金を利用し、今年2月に防災車1台、デジタル無線機21台を配備しました。去る2月27日・28日に発生した沖縄本島近海地震、チリ大地震による津波警報時には、市内海岸沿い・川沿いを中心にパトロールを行い、市民への避難勧告や各部との連絡等に活躍しました。

市ではこれからも、減災に力を入れ、「災害に強い浦添市」を目指していきます。詳しくは、市ホームページの防災情報をご覧ください。



問い合わせ 総務部 防災危機管理室
☎876-1190（内線2021）

浦添市名誉市民第1号決定

尚裕（しょう ひろし）氏が浦添市名誉市民第1号に決定しました。尚裕氏の名誉市民決定につきましては、浦添市名誉市民選考審議会に諮問し、同審議会より「異存なし」との答申を受け、3月市議会定例会に同意を求める議案を上程し、3月8日に全会一致で可決されました。

顕彰証および名誉市民章の授与につきましては、7月1日実施予定の市制施行40周年記念式典において行う予定です。なお、尚裕氏は故人であるため、顕彰証および名誉市民章の授与は遺族に行います。

【尚裕氏の功績】

尚家第22代当主故尚裕氏は、長年にわたり本市に所在する琉球王国の陵墓浦添ようどれを保存、管理してきました。

平成7年に、浦添ようどれの土地3,629㎡を本市に贈与し、国指定史跡浦添城跡の第1期復元整備事業を著しく促進させるとともに、本市が誇る浦添城跡の世界遺産登録に向け大きく前進させました。故尚裕氏は、本市の文化の発展と文化の都市づくりに卓越した功績を残すなど、市民はもとより県民からも深く敬愛されております。

問い合わせ 企画部 秘書課 ☎876-1234（内線2563）



市制施行40周年記念事業

平成22年度浦添市文化芸術振興事業 助成:(財)地域創造

子どもオペラワークショップ参加者募集

浦添市文化芸術振興事業実行委員会では、市制施行40周年記念事業として、浦添の子どもたちによる、浦添ようどれを舞台とした創作オペラ「悲愁～尚寧王妃の墓」（仮題）を制作します！5月から12月まで約8か月間、歌唱、演技、ダンス、楽器演奏のワークショップを行い浦添発の創作オペラ公演を目指す新しい試みです。ジャンルは問いません、あなたの得意な歌・楽器・踊りでこのオペラを一緒に作り上げませんか？

期 間 5月9日から12月下旬まで 全60回
※12月下旬にてだこホール大ホールにて公演予定

対 象 浦添市在住または在学（小4～高3）で継続して参加できる人

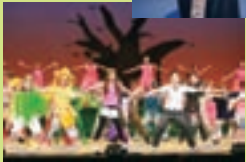
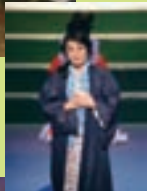
人 数 100人 ※先着により定数になりしだい締め切ります。

会 場 浦添市中央公民館分館など

参 加 料 3,000円（保険加入代等）

募集期間 4月12日（月）～4月23日（金）
オリエンテーション 4月29日（木）公休日 午前10時～午後0時30分

応募方法 申込用紙に参加料を添えて直接文化課へ持参、または郵送してください。
郵送の場合 〒901-2501 浦添市安波茶1-1-1 浦添市役所文化課
申請書は市役所のホームページからも取ることができます。



この事業は浦添市こども文化連盟「太陽樹」に業務委託を予定しています。

問い合わせ 文化課 文化振興係 ☎876-1234（内線6211）



チバリョーパト！



ロビンソン・パトリック
Patrick Robison
2008年8月から国際交流員として、
浦添市役所国際交流課に配属される。
米国アイダホ出身。

文・英訳：ロビンソン・パトリック

一望千頃

数ヶ月前に、市内にあるとてもおいしい中華料理屋で夕食を頂きました。ラーメンをすすったり餃子を味わったりしながら、店のオーナーと会話を始めました。オーナーが外国人の私を見て、出身地について聞いてきました。「アメリカのアイダホ州から来ました」と答え、引き続きアイダホ州の誇りであるジャガイモやロッキー山脈の話をしようと思いました。アイダホ州のことを知らない人が多いため、よくこういう説明が必要です。アメリカ人でも、アイダホ州の位置が分からない人は珍しくありません。

びっくりしたことに、オーナーが笑顔を見せながら、「アイダホですか？アイダホ州なら行ったことがありますよ」と話すではありませんか！それからは私の方から色々質問をしました。オーナーのお姉さんが米軍人と結婚し、アイダホ州に住むことになったそうです。その後、一度お姉さんの住んでいるボイシ市（アイダホ州の州都）を訪ねたことがあると教えてくれました。

アイダホ州の感想について聞いてみると、困惑して首を振り、「広すぎますよ！何もない草原や水平線まで広がる畑を見て、ここは絶対に住めないなと思いましたよ」と答えました。私にはこの返事が予想外だったので、笑ってしまいました。こんな風にアイダホ州のことを考えたことがありませんでした。

アメリカの民謡では、空地や果てしない自然の喜びについて歌う伝統があります。例えばカウボーイの唄なら、放牧地で質素で自由な生活を送ることが理想的な生き方として挙げられ、「鳥の鳴き声とそよ風に耳を傾けることほど、素晴らしいことはないよ」という歌詞がよくあります。たくさんアメリカ人にとって、見渡す限り家や街のない自然景観が「世界一」美しいものではないかと考えます。

ですから、店のオーナーの感想を聞いたときは、驚きました！街も亜熱帯植物も密集した沖縄で育った人が、アイダホ州の風景を見たら違和感を覚えるかもしれないと、初めて思いました。私にとって懐かしい景色である一方、他人にとっては、まるで他の惑星にたどり着いたようなものなのでしょうね。

店から出るときに、満腹だけではなく、新しい考え方もお土産として持ち帰ることができたので、有り難く思いました。是非皆さんにアイダホ州を訪ねて頂きたいと思いますが、実際にアイダホ州に着いた時に、あまりの広さにびっくりしないでください！

"Let me ride through the wide open country that I love..."

A few months ago I ate dinner at a very tasty Chinese restaurant in Urasoe. Between slurping my ramen and savoring my pot stickers, I managed to strike up an interesting conversation with one of the owners of the restaurant. Noticing I was a foreigner, she asked me where I was from. I told her I came from the U.S. state of Idaho and prepared to launch into my usual spiel about potatoes and the Rocky Mountains - not many people outside of the western United States are familiar with Idaho, and even a number of Americans have trouble placing it on a map.

Before I could say another word, she smiled and responded, "Oh yeah? I've been to Idaho." I reeled in shock and began peppering her with questions. One of her sisters had married an American soldier from Idaho and ended up moving there some years ago. She had gone to visit her sister once, who now lives in Idaho's capital city of Boise.

I proceeded to ask her about her impressions of my home state, to which she shook her head in distress and replied, "It's so big. All that empty space and those open fields. There's no way I could live there!" This response made me laugh. I'd never thought of Idaho this way before.

There is a tradition in American folk music of singing about the joys of open spaces and endless nature. In a number of cowboy songs, the singer lauds the simplicity of life on the open range, wild and free, listening to the birds sing and the wind rustle in the prairie grass. For many Americans, there is nothing more beautiful than the thought of a landscape untouched by human settlement, nature stretching as far as the eye can see.

Imagine my surprise then upon hearing the woman's response: I suddenly realized that to someone from a place like Okinawa, where there is dense human settlement and even denser subtropical vegetation, all this open space must seem very strange indeed. This space is one of the things I miss the most about my home, and yet to others it can seem as forbidding and alien as another planet!

I left the restaurant with a full stomach and a new perspective on my homeland, both for which I was very thankful. By all means, please come visit Idaho someday, but consider yourself warned: it might be emptier than you think!

ギャラソーてだこ



へんとな たいが（6才）



玉城 ひな（5才）



玉城 由貴（中1）



はた ゆうな（4才）



はた るな（5才）

G a l l e r y T e d a k o

作品募集

（テーマは自由です）はがきで送ってください！

〆切りは毎月12日迄

〒901-2501 沖縄県浦添市安波茶1-1-1
浦添市役所国際交流課
☎876-1234（内線2613・2614）